

## 漢詩の世界

### ■選者紹介

### 熊征 (ゆう せい / Xiong Zheng)

北海道大学大学院文学研究院講師

【専攻】中国古典文学・中国哲学

### ■選者の著作

熊征著『隠逸詩人陶淵明 (楡文叢書 7)』  
北海道大学出版会、2025 年

仕官の道から田園に帰り、隠逸生活をうたった陶淵明。「古今隠逸詩人の宗なり」と評されたその人物、思想、詩と後世の評価について、楊朱の影響、湛方生および江淹との相違、顔延之、鍾嶸、蕭統・蕭綱兄弟による評価など多様な観点から分析する。

定価：7,700 円 (本体価格 7,000 円＋税)  
ISBN：978-4-8329-6902-5



### ■選書リスト

01 釜谷武志著『陶淵明：〈距離〉の発見 (書物誕生：あたらしい古典入門)』岩波書店、2012 年

陶淵明の真価が発見された宋代には、「菊を採り東籬の下、悠然として南山を見る」という名句をめぐって「見」と「望」の議論があった。本書では、田園詩人、隠逸詩人と称される陶淵明の中国と日本における読み方、とりわけ陶淵明評価の変遷を辿ったうえで、「見」と「望」の使いわけによって陶詩における特徴的な風景との距離感を解明する。それはまた、陶淵明の自然風景との距離、己自身との距離という陶淵明を読解する鍵なのである。

定価：2,420 円 (本体価格 2,200 円＋税)  
ISBN：978-4-00-028301-4

02 高芝麻子著『漢文世界のいきものたち (あじあブックス)』大修館書店、2025 年

漢文や漢詩に登場する、「狐」「虎」「猫」「犬」「鳥」「魚介」「驢馬」「猿」などのいきものに関わる面白い話を紹介する。動物の間、動物と人間の間起きた日常の話もあれば、動物が怪物に変わったり、不思議なことをする話もある。また、詩語としてのいきものは、詩人の理想が託されていることが多いが、それぞれの発想の根源を探る。

定価：2,200 円 (本体価格 2,000 円＋税)  
ISBN：978-4-469-23324-7

03 古川末喜著『二十四節気で読みとく漢詩』文学通信、2020 年

二十四節気という暦の枠組みは、中国をはじめ古代東アジアの人々の暮らしにおいては不可欠な要素であった。本書は二十四節気を詠じる漢詩について、暦の歴史や知識を整理しながら、詩が詠まれた地域や気候を解明するとともに、時代の背景や詩人の心境を紹介し、時空を超えた詩的旅に読者を誘う。

定価：3,080 円 (本体価格 2,800 円＋税)  
ISBN：978-4-909658-37-1

04 一海知義著『漢詩入門』岩波書店 (岩波ジュニア新書)、1998 年

漢詩作りの入門書というよりも味わい方の入門書である。前半では友情の詩、別離の詩、戦争の詩、大自然を歌った詩など漢詩の定番となるテーマごとに名詩の良さを解説する。後半では Q & A の形によって基本的な決まり事が整理されている。中国の漢詩詩人のみならず、日本の夏目漱石や河上肇などの詩人も登場する。著者の気品のある解説によって、読者は漢詩の世界に導かれるであろう。

定価：1,056 円 (本体価格 960 円＋税)  
ISBN：978-4-00-500304-4

05 石川忠久監修『漢詩創作のための詩語集』大修館書店、2022 年

延べ二万五千余りの詩語を収録し、詳細な分類のもと、類義・同義の詩語をまとめて掲載している。平仄・読み・語義・韻目も掲載しているため、漢和辞典などで時間をかけて調べる手間を節約できる。とりわけ日本や現代の事物に関連する詩語や「付録」の「作詩指南」では「和習」の避け方を紹介する。漢詩創作や漢詩鑑賞に興味のある方にとっては簡便で重宝する一冊である。

定価：6,930 円 (本体価格 6,300 円＋税)  
ISBN：978-4-469-23284-4

06 下定雅弘著『中国古典をどう読むか：規範からの逸脱、規範への回帰』勉誠社、2023 年

「酒」と「色 (美女)」は、漢詩の重要な二大テーマだと言えるが、その主題がはっきり

しない作品も少なくない。「あなたの上着の襟になりたい」「あなたの素足を包む靴になりたい」と数十句綴って美女を歌う陶淵明の「閑情賦」や、玄宗と楊貴妃の恋を歌った白居易の「長恨歌」はその代表的な例である。「規範からの逸脱、規範への回帰」という表現の力学によって、これらの作品の主題に新たな読みを提示する。

定価：4,180 円 (本体価格 3,800 円＋税)  
ISBN：978-4-585-39027-5

07 齋藤希史著『詩のトポス 人と場所をむすぶ漢詩の力』平凡社、2016 年

洛陽、成都、金陵、洞庭、西湖、廬山、長安など、漢詩によく登場するこれらの地名は、現在でも中国旅行のスポットである。洛陽に始まり、西湖や涼州などを経て、江戸、長安へと至り、場所と詩人の運命とのつながりの説明にとどまらず、詩人それぞれが場所に投影した心象風景を解明してくれる。書名にある「トポス」は場所を意味するギリシア語であるが、ここでは「ことばと場所が積み重なるところ」という意味だという。

定価：2,860 円 (本体価格 2,600 円＋税)  
ISBN：978-4-582-83727-8

08 武田雅哉編『西遊記 (ビギナーズ・クラシックス 中国の古典)』KADOKAWA (角川ソフィア文庫)、2024 年

中国の古典小説『西遊記』全百回のあらすじと要所の現代語訳がコンパクトにまとめられている。韻文の詩詞は日本語の歌のリズムに合うように翻訳されており、声に出して読むことをお勧めする。解説やコラムでは、『西遊記』を理解するために重要な豆知識のほか、現代中国の京劇、アニメやドラマにおける改編も紹介されている。初心者はもちろん、『西遊記』ファンでも新たな面白さを味わえる一冊である。

定価：1,364 円 (本体価格 1,240 円＋税)  
ISBN：978-4-04-400742-3

09 ナンタン 田村容子著『男旦 (おんながた) とモダンガール：20 世紀中国における京劇の現代化』中国文庫、2019 年

18 世紀末から 19 世紀にかけて萌芽した中国の伝統劇—京劇における女役を演じる「男旦 (おんながた)」の興亡史。観客や記者、劇評家を書き残した記録を手がかりに、京劇の劇場構造や舞台装置 (ハード) の面から、脚本や演出といった舞台上の内容 (ソフト) の面に至るまで、京劇が歩んだ現代化の道のりをたどる。その過程で、女役を演じる俳優の身体が、いかに男旦から女優へ、すなわち男性から女性に交代したのかを解明する。

定価：3,300 円 (本体価格 3,000 円＋税)  
ISBN：978-4-9906357-8-7

## 10 井口淳子・山本佳奈子編著『ファンキー中国：出会いから紡がれること』灯光舎、2025 年

音楽家や収集家、映画祭主催者、祭祀採音者、研究者など 13 人が、自身の体験した「中国」を綴ったエッセイ集。内容は、音楽、クラフトビール、TikTok、豆腐屋、祭祀、ロックフェスに伝統劇を含む。70 年代の文革期から現代中国という時代をまたにかけ、北京の胡同（フートン）から雲南、四川省、果てはフランスや台湾、モンゴルにまで広がっていく舞台上、ファンキーな中国に出会える。

定価：2,530 円（本体価格 2,300 円＋税）  
ISBN：978-4-909992-04-8

## 11 古勝隆一著『中国注疏講義：経書の巻』法蔵館、2022 年

「注疏」とは中国の儒家經典を解釈・説明する書物を指す。この「注釈を利用して古典を読む」という方法を身につけると、儒家經典のみならず、諸子の書・歴史書・文学作品・仏教や道教の經典に対する注釈、そして日本において作られた漢文の注釈書などに対しても、広範に応用してゆくことが可能であるという。【基本篇】を通じて「注疏」の基本知識を身につけ、【読解篇】では実践的に学ぶことができる。

定価：1,980 円（本体価格 1,800 円＋税）  
ISBN：978-4-8318-7758-1

## 12 橋本秀美著『孝経 儒教の歴史二千年の旅』岩波書店（岩波新書）、2025 年

儒家經典の中、『論語』と並び親しまれてきた『孝経』。それがいかに誕生し、解釈されたのか、そして権力によっていかに取捨選択されてきたのかという紆余曲折を遡りながら、儒教の長い歩みを解明する。儒家經典に関わる文献学に触れながら、儒教の宗教性を考えさせる一冊である。

定価：1,056 円（本体価格 960 円＋税）  
ISBN：978-4-00-432050-0

## 13 小松謙著『熱狂する明代 中国「四大奇書」の誕生』KADOKAWA（角川選書）、2024 年

中国の明代に刊行された四篇の長篇小説、『三国志演義』『水滸伝』『西遊記』『金瓶梅』は「四大奇書」と呼ばれている。今の日本でも親しまれているこの「四大奇書」を巡って、「知識人の曹操が、『三国志演義』の敵役となった理由」、「『金瓶梅』は復讐のために書かれた小説だった!？」といった文学史上の謎を解きながら、明代の歴史と文化の旅に導く。

定価：1,980 円（本体価格 1,800 円＋税）  
ISBN：978-4-04-703732-8